

KIDS センター Cafe



第9回 文字のかたまり

先日、幼稚園に通う次男が乗り物図鑑を片手に話しかけてきました。「おとう、モハールってなに〜？」と真剣な表情で問いかけてきます。モハール？何のことだろう？しばらく考えてみましたが、何のことだか検討もつきません。「どれのこと？みせてごらん」と図鑑を一緒に覗いてみます。次男は、「これだよ〜」と言って、ある乗り物の写真を指さして教えてくれました。そこには、モノレールの写真が載っていました。思わず笑ってしまいましたが、彼は、カタカナの「ノ」と「レ」が1つの文字だと思い、「ハ」と読んでしまっていたのです。「これは「ノ」と「レ」で、モノレールって読むんだよ」と教えると、「モノレール！モノレール！」と何度も誇らしげに繰り返していました。

わたしたち大人にとっては自然に読める文字も、はじめて触れる子どもたちにとっては未知の記号です。特に、日本語は、いくつかのパーツが組み合わさって1つの文字になっているものも多く、1つのまとまりとして理解するには時間がかかります。文字を覚えていくプロセスの中で、今回の例のように、本来とは異なるまとまりとして読んでしまったり、左右が反対になってしまうこともしばしばあります。大切なのは、合っているかどうかよりも、その子が文字に興味を持ち、がんばって理解しようとしていることだと思います。子どもの読み間違いには思わず微笑んでしまうものもあり、また、こういうふうに見えているんだという気づきになることもあります。それらも楽しみながら、気長に見守っていけるといいですね。

たねラボは、金城学院大学 加藤大樹研究室による、心理学の研究成果を地域にわかりやすく伝えていく取り組みです。

